



第3回みみらんどセミナーを実施しました。

令和元年度 第3回みみらんどセミナー 報告

- ★ 日 時 ★ 令和元年度11月21日(木) 15:15~16:40
- ★ テーマ ★ 「きこえにくい子の0歳からの療育の実際と教育に期待する役割」
- ★ 講師 ★ 福島県総合療育センター 言語聴覚士 山田奈保子氏

1 最近の小児難聴医療

現在は、新生児スクリーニング検査により0歳代で発見されることが多くなってきた。それにより、補聴器装用は3か月から、人工内耳手術は1歳からと、早期の聴覚補償が可能となっている。また、難聴の原因遺伝子も特定されてきているといった現状がある。

2 0歳児の療育に必要なこと

○聴覚の補償

- ・補聴器等、常時装用の重要性

○保護者への指導

- ・愛着の形成(特に母親への支援)
- ・コミュニケーションスキル
- ・聴覚-発声のループ作り



3 難聴児の困難性と療育の目的

【衝撃の事実】 難聴児の60%の子どもたちが、日本語が分からない状況で小学校へ通っている。

- 語彙の発達 ・聴覚障がい児の多くは、語彙年齢に2年以上の遅れ。
 - ・家庭での関わりなど、環境因子も語彙の発達に大きな影響を与える。
- 構文の発達 ・健聴児と聴覚障がい児では、構文を獲得する時期や順序が異なっている。
- 生活言語を充実させ、学習言語への移行を！

4 教育に期待すること

『難聴児の早期支援に向けた保健・医療・福祉・教育の連携プロジェクト』

※厚生労働省・文部科学省の副大臣を共同議長とする難聴児の早期支援に向けたプロジェクト

- 療育・教育体制について、一般の保育所等でも必要な対応が図れるように…
 - ・訪問型支援の強化 ・特別支援学校における0~2歳児の受け入れ態勢の構築
- 困り感を知った上での配慮⇒教育の時期によって内容は変わる。
 - 0歳代 : 聴覚補償、親への支援
 - 未就園時期: 特に親への指導・支援
 - 就園時期 : 保育をベースとした言語介入
難聴児の困難性の理解と配慮
生活言語と学習言語への移行
 - 就学時期 : 学習・友人関係の視点

<参加された方々の感想> ※一部抜粋

- ★より早い学習が重要だとつくづく感じさせられました。
- ★早速明日から、気を付けていかなければならないことを実践していきたいと思います。
- ★教育、家庭と医療等の連携の大切さなど、大変参考になりました。

ご参加の皆様、講師の山田先生、
ありがとうございました。



冬の補聴器や人工内耳の管理について



寒さが凍みる季節になりました。体の健康を保つことと同じように、季節の移り変わりによって、補聴器や人工内耳の管理にも工夫が必要になります。小学部では、児童が自分の補聴機器を適切に管理する力を身に付けられるよう、「冬の補聴器や人工内耳の管理」について自立活動の時間に学習しました。

冬は… 気温が下がるため、電池の消耗が早くなります。

室内と外気の温度差により、結露しやすくなります。



①電池チェックをまめに行い、出かけるときは予備の電池を携帯しましょう。



②チューブの結露は、エアプッファーで取りましょう。



③補聴器や人工内耳を外したら、乾燥ケースに入れましょう。



●二学期終業式の日、「みみファイル」を配布します。

●幼稚部から小学部へと、お子さんの発達段階に応じて、自分の補聴器や人工内耳を大切に扱う気持ちを育てていきましょう。



12月10日(火)に『第2回みみふく学習会』を行いました。「たのしく子育て～食べる編～」をテーマとして、食べること、親子クッキングの意義などをお話しながら、参加者全員で、親子でできる簡単おやつを作りました。冬休みに、ぜひチャレンジし、親子でやりとりしながら、楽しくおいしい時間を過ごしてください！

お知らせ！

※当日参加されなかった方で、『親子クッキングレシピ集』などの資料が欲しい方がいらっしゃいましたら、担当今野までお知らせください。



連絡先 福島県立聴覚支援学校 福島校
TEL&FAX 024(531)5013
アドレス <https://fukushima-sd-fukushima.fcs.ed.jp>
担当 地域支援センター「みみらんど ふくしま」

今野千寿(特別支援教育コーディネーター)

こちらのQRコードからHPにアクセスできます。

